

北海道

7 団体



北海道標津高等学校

自然環境類型 自然科学部

天然記念物標津湿原および周辺湿地環境の保全活動・森林資源の有効活用と情報発信

外来種浸食が顕著になっている標津湿原の自然環境復元を目指す。トドマツやササの伐採を行い、またその効果については新聞等で発信した。今後はササの効果的な除去方法についても検討を行っていく。



北海道士幌高等学校

環境専攻班

士幌の原植生 カシワ林を後世に伝えるために

貴重な士幌のカシワ林を保全することを目的として活動している。生物多様性に関する調査や各種イベントや会議での啓発活動を通じて、以前と比べより稀少になっているカシワ林への、地元の認識変容を目指す。



北海道旭川農業高等学校

森林環境班

ササの有効利用 ～森林バイオマスとしてのササ資源の利用～

造林において管理保育が必要なササの需要拡大に結びつく有効利用先を見つけ、林業の再生と森林環境保全を目指す。伐採したササを利用した紙を、今後は更なる品質向上・量産化することを課題とし、全国へ広げていく。



北海道函館水産高等学校

北のくにづくり2017

食品製造実習室のアルコール環境変化と細菌の耐性に関する研究

食の安全・安心を保証するため、アルコール耐性菌の割り出しを行い、より効果的な殺菌剤の使用についての検討を行っている。アルコールの使用履歴や細菌培養結果の比較・検討ができた。今後は、北大水産学部や函館市工業技術センターのアドバイスを得て、科学的信頼度の高い実験を目指す。

北海道標茶高等学校

タンチョウトランスミッションプロジェクト

タンチョウと地域の共生を目指して ～価値を見直し、田舎に誇りを～

特別天然記念物であるタンチョウが生息する標茶町で、タンチョウと地域の共生を目指して活動している。地元住民へタンチョウの稀少さを伝えるため、標茶町主催の環境講演会で発表を行ったり、標茶高校の敷地を活かしたフットパスを作り、湿原やタンチョウを観られる場所を用意した。

北海道帯広農業高等学校

水質浄化班

地域の水を守る ～人工湿地による酪農雑排水の浄化～

残留肥料や家畜糞尿を原因とする河川の水質汚染が問題となっている十勝で、持続可能な農業を実現するため、水質浄化を目指す。ろ過材料選定や改良延長工事により、水質モニタリング結果の数値は向上した。今後は農家にも導入可能な安定的な技術の確立を目指す。



北海道札幌旭丘高等学校

生物部 トンネウス沼班

トンボの多様性を守るために

トンボの生息地として知られるトンネウス沼は宅地開発の影響による生態系の変化が問題視されている。そこで、トンボの多様性を向上させるため、水質や気候調査、また昆虫採集教室など、住民への啓発活動を行った。今後も継続し、多様性の減少原因を探っていく。



東北

28 団体



東北地区は、

「全国ユース環境活動発表大会応募高校」、

「環境甲子園応募高校」、

「東北地区高校生環境座談会参加高校」の環境活動を

ご紹介しています。

(協力: NPO法人環境会議所東北)

青森県立柏木農業高等学校

Fry a way

世界遺産の森を広げよう ～次世代に引き継ぐ環境教育活動～

白神山地の世界遺産指定地域の周辺地で、私たちの次の世代にも豊かな白神山地の大切さを受け継いでもらえるよう、小学校低学年や幼稚園の小さな子どもたちとの活動と一緒に始め、自然体験などの環境教育を進めている。



青森県立名久井農業高等学校

TEAM FLORA PHOTONICS

生物による水質浄化システム「バイオエンジン」の開発と普及

世界中で富栄養化による水質汚染が発生し、藻類が異常繁殖する環境問題。私たちは、生物の力だけで浄化できるシステム「バイオエンジン」の開発に取り組んできた。現在、設置したバイオエンジンは100基以上になる。



八戸工業高等専門学校

産業システム工学科

マテリアル・バイオ工学コース

分析化学や無機化学など専門化学を講義で学ぶと共に、分析化学実験など各種実験により実験技術を身に付けている。4年生からは研究室に配属され、卒業研究を行う。また、「環境」に関するテーマなど、自分でやりたいテーマを決め研究する「自主探究学習」を行っている。

青森県立名久井農業高等学校

環境班

既存の太陽光発電所での作物栽培の可能性を探る

地球温暖化が叫ばれる現代、自然エネルギーを利用する太陽光発電が増えていく。農業高校に学ぶ私たちはすでに設置されている太陽光発電所で発電と作物栽培を両立させる研究に取り組んでいる。また、発電所で行う省力作物栽培技術を探っている。